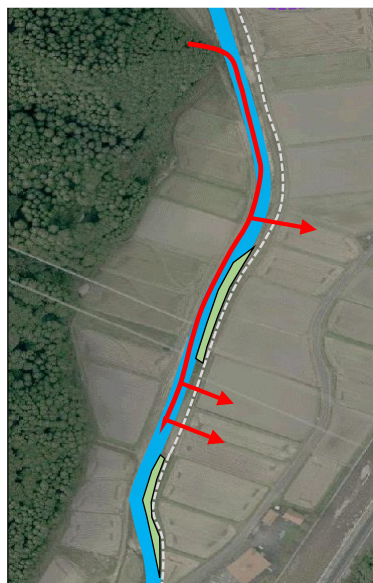


金網柵の裾部分から潜り込むことを覚えた イノシシの侵入防止対策(メッシュガイシ編)

1 取組の背景

- 近年、西粟倉村筏津地区の水田では、イノシシが金網柵やワイヤーメッシュ柵を突破して被害を発生させる事例が増えています。
- 令和5年度に、赤外線カメラを搭載したドローンによる被害実態調査を行った結果、イノシシが水田脇の河川を移動し、金網柵(右図黄色点線)の裾部分から潜り込んでいたことが判明しました。
※右図赤色線は検出された侵入経路
- そこで、今年度は、既存の金網柵に「メッシュガイシ」を追加し、電気柵を追加することで、弱点である裾部分の強化を図る実証を行いました。



イノシシの侵入経路



水田から退出するイノシシ



河川内を移動する
イノシシの親子
(ドローン撮影)

2 実証内容(設置方法)

- 既存の金網柵の交点にメッシュガイシを装着した。
(4m間隔が目安)

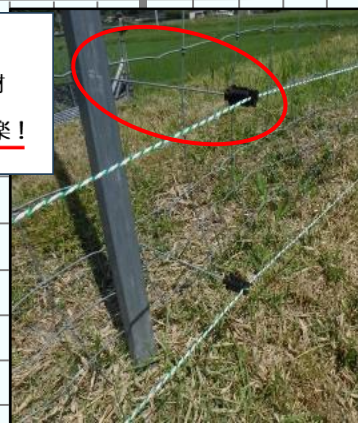
- イノシシが鼻で触るように電線は地上から30cmと50cmの高さに2段で設置した。

メッシュガイシ

WM柵に取り付けることで、簡単に柵線を追加できる資材

利点 設置が簡単、かつ電気柵の支柱が不要なため草刈りが楽！

金網柵との
接合部分→



地上
50cm

地上
30cm



- 河川からの侵入を抑制するため、電気柵は、右図黄色線の金網柵に沿って設置した。
- ルートの一部が、伐採困難な竹藪に覆われていたため（以下、竹藪エリア：右図の黄緑色の部分）、電線が竹に接触して漏電することが懸念された。
- このため、竹藪エリアには電線を架設せず、被覆電線で竹藪エリアの両脇の電線を接続した（右図赤点線部）。
- 竹藪エリアは、根が密生していたため、ここからの侵入リスクは低いと判断したが、万が一、竹藪エリアからイノシシが侵入した場合は、ワイヤーメッシュ等で裾部分を補強する方針とした。



被覆電線の接続箇所



竹藪エリアの様子



- (---) : 既存の金網柵
- (---) : 電気柵の架線部
- (---) : 被覆電線
- () : 竹藪エリア

3 設置資材(総延長250m、2段張り)

※金網柵設置済みの場合

(参考価格：税込)

資材名	規格	単価① (円)	数量② (個)	小計①×② (円)
電源装置	ソーラーパネル付属	49,500	1	49,500
柵線	500m巻き	5,750	1	5,750
メッシュガイシR200	50個/袋	8,239	3	24,717
ゲートハンドル	大型	583	2	1,166
緊張具	6 個入り	1,100	1	1,100
危険表示板	1 枚	462	2	924
被覆電線	50m巻き	9,500	1	9,500
資材費合計				92,657

4 対策結果の概要

- センサーカメラによるモニタリング調査と被害実態調査を行ったところ、河川を移動して前年の侵入箇所に近づくイノシシの姿は確認されたものの、水田内への侵入は一度も確認されず、被害も発生しなかった。
※今年度は、竹藪エリアからの侵入も確認されなかった。
- 結果から、メッシュガイシにより電気柵を追加することで、イノシシの潜り込みを効果的に防止できる可能性が示唆された。



前年の侵入箇所に現れたものの、侵入を諦めて退散するイノシシ